

I-1:その他

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 13:20-14:50 B201(2階)

ハゲタカジャーナル - 問題点・現状・対策

近年、論文掲載料の徴収を目的とし適切な査読を行わない粗悪な学術誌、いわゆる「ハゲタカジャーナル」への論文投稿が問題となっている。それと気づかず、ハゲタカジャーナルに投稿してしまいトラブルに巻き込まれるといったことが起こっており、研究者のみならず各研究機関の担当者が、正しい知識に基づき適切な対策を講じることが求められている。

一方で、研究者自身がハゲタカジャーナルと知りながら、意図的に投稿するケースも発生している。研究成果の質の担保は、科学の健全な発展だけではなく、研究者自身のキャリア形成・業績評価のためにも欠かせないものと考えられるにもかかわらず、一体なぜこのような事が起こるのか。

本セッションでは、これまでハゲタカジャーナルを含むオープンアクセスジャーナルの動向について研究してきた同志社大学の佐藤翔准教授と、ハゲタカジャーナル問題を精力的に取材し、この問題について警鐘を鳴らし続けてきた毎日新聞社の鳥井真平記者をお招きし、ハゲタカジャーナルに関する被害の現状、対応策の説明に加え、その背景にある科学界全体の課題についてご講演いただく。質疑応答にも十分な時間を確保し、講演者と参加者、また参加者同士がディスカッションをとおり、ハゲタカジャーナル問題の本質について理解を深める事ができるような機会にしたい。

オーガナイザー

佐藤智哉：
金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任助教



カリフォルニア大学サンディエゴ校で哲学のPh.D.を取得後、金沢大学にURAとして赴任。現在は、プレアワード・ポストアワードのサポート業務に加え、研究力分析やIR業務を担当。

講演者

佐藤 翔:同志社大学 免許資格課程センター 准教授



1985 年生まれ。2012 年度筑波大学大学院博士後期課程図書館情報メディア研究科修了。博士(図書館情報学)。2013 年度より同志社大学助教。2018年度より同、准教授。国立国会図書館非常勤調査員・文部科学省学術調査官を兼務。大学院生時代は専らオープンアクセスと機関リポジトリについて研究。就職後は研究の幅が公共・学校など館種を問わず拡大中。

鳥井 真平: 毎日新聞社 水戸支局 兼 科学環境部 記者



1981年生まれ。北海道大学工学部卒。同大学院工学研究科修士課程修了。2007年に毎日新聞社入社。前橋支局を経て2012年に東京本社科学環境部、2016年に大阪本社科学環境部。2019年5月から水戸支局(兼東京本社科学環境部)。これまでに原子力などの科学分野を担当。ハゲタカジャーナル報道で2019年の科学ジャーナリスト賞を受賞。